

平成 26 年度 第 2 回 広島県立大崎海星高等学校活性化地域協議会 議事要旨

【日 時】 平成 26 年 9 月 3 日 (水) 16 : 00 ~ 18 : 00

【場 所】 広島県立大崎海星高等学校

【出席者】 (敬称略, 50 音順)

大林 秀則, 閑田 大祐, 越田 宏行 (代理), 小林 弘晁, 小林 弘志, 高田 幸典, 二宮 力
宗本 祥子 (委員 8 名) 三浦 喜成 (広島県教育委員会事務局 1 名)

【議事概要】

1 開 会

○校長挨拶 ○委員自己紹介 ○会長挨拶

2 報 告

- (1) 第 1 回協議内容について
- (2) 県外先進校視察報告について
- (3) 中高連携に係る実務者会議報告について
- (4) 県外からの生徒の受入れについて

3 協 議

- (1) 学校に期待される役割及び活性化の方向性について

①魅力づくりについて

○地域学習「大崎上島学」が、幼小中高で系統的に行われるようなルールづくりが必要である。

※ 1 教員が積極的に地域に出かける必要がある。

2 自然の素晴らしさや地域の産業を体感できるような、体験活動を増やす。

→ 12 月下旬を目途に、小中との連携のもと、実施内容を検討する。

○系統的な「英語教育」について小中高で連携し、姉妹校であるニュージーランドに多くの生徒を留学させる取組ができないか。

※ 1 大崎上島の歴史と文化について、英語で語れる生徒を育成する。

(「大崎上島学」との連動)

2 英語の授業に特化せず、学校全体で取り組む「英語教育」のプランが必要である。

→ 小中高の担当者による実務者会議により、取組内容を検討する。

○生徒の学力を伸ばす、特色あるシステムが作れないか。

→ 授業づくりを継続・発展させる。

○大崎海星高校が培ってきた実績を積極的に PR する必要がある。

※ 1 5 年後, 10 年後の明確なビジョンを示す。

2 中学生にダイレクトに届くことが必要である。

→ 学校便り・HP を充実させるとともに、情報発信の戦略を練る。

②中高連携について

○実現可能な内容を確実に実行していく必要がある。

- ・学校行事や部活動の相互乗り入れ
- ・高校教員による中 3 生への進路相談, 中学教員による高 1 生への面談
- ・中学生のニーズに応じた部活動の精選
- ・情報交換会の継続
- ・相互授業参観等の日常的な授業研究

※ 1 中学生が「中学を卒業したら大崎海星高校に行く」と自然に感じることができるような中高連携であって欲しい。

2 ボランティア活動・権伝馬等, 先輩と後輩の繋がりを強めるような連携が必要である。

→ 中高の担当者による実務者会議での検討を継続する。



③地域ぐるみの活性化の方策について

○生活体験等，経験不足の児童生徒が多い。島外での活動も含めて，生徒が体験する場面を意図的に仕組んで欲しい。

→ 「大崎上島学」の計画と連動させて取り組む。

④生徒募集について

○県外からの生徒募集は，平成27年度入試において実施しないが，平成28年度入試からの実施に向けて検討する。

→ 住まい・食事・里親の確保に向け，町・同窓会等との協議を始める。

⑤その他

○小・中学校の生徒・保護者・教員に対してアンケート調査を実施し，大崎海星高校に対する要望等について整理し，学校の魅力づくりに生かす。

→ 小中との連携のもと早期に実施し，次回の協議会に報告する。

○生徒が何を重点にして高校を選んでいるかについて，中学校でまとめて欲しい。

→ 12月の担任面談を通してまとめる。

4 まとめ

5 閉会

○会長挨拶 ○次回の開催予定 11月20日（木）15：00～17：00

※本協議会は，公開としております。